

社会的インパクト評価の実践による  
人材育成・組織運営力強化調査  
－最終報告書 概要－

平成 29 年 3 月  
内閣府

## 1. 調査の背景・目的・実施方法

本調査は、平成27度の内閣府共助社会づくり懇談会・同社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ報告書に示された社会的インパクト評価の普及における6つの課題に対応する7の対応策のうち、「評価の担い手の育成を目的とした講習会の実施とモデル事業」及び「評価事例（ベスト・プラクティス）蓄積とピア・レビュー実施による知識共有化」を受けて、社会的インパクト評価の実践事例の創出と実践を通じた課題等の把握を目的に実施した。

本調査は、(1)社会的インパクト評価の活用を志向する社会的企業3社により、ロジックモデル作成からインパクトレポートの作成に至る一連のプロセスを有識者や受託法人担当者による伴走支援を得ながら実践するとともに、(2)有識者により設置された研究会において、社会的インパクト評価を実践する社会的企業に対して評価実践に対する専門的指導・助言や課題等の分析・把握を行い、(3)中間報告会、最終報告会において、これらの実践過程や成果、課題などを広く公開する方式で実施した（詳細は参考参照）。

本調査は、内閣府の委託を受け、新日本有限責任監査法人が実施した。

## 2. 社会的インパクト評価の実践結果

### (1) 社会的インパクト評価を実践した社会的企業

- ① 株式会社K2 インターナショナル（神奈川）：若者自立支援
- ② 認定特定非営利活動法人 Switch（宮城）：困難を抱える者の自立支援
- ③ 特定非営利活動法人マドレボニータ（東京）：産後ケア

### (2) 実践結果

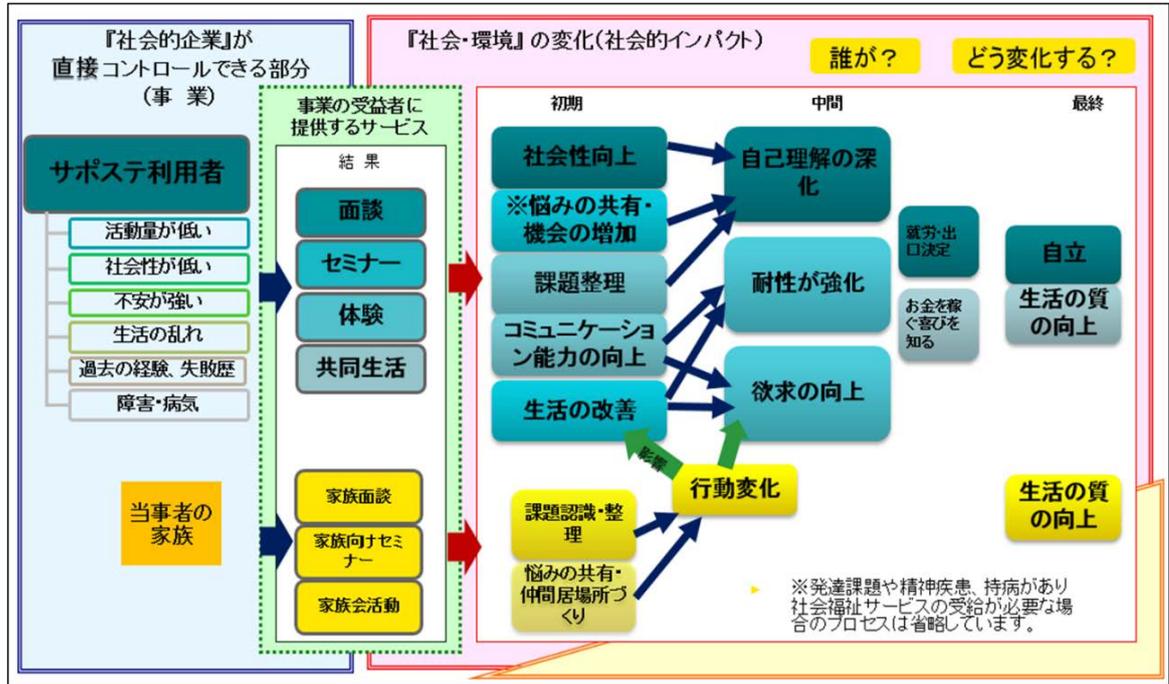
#### ① 株式会社K2 インターナショナル

【ステップ0：評価目的・ステークホルダーを確認する】

- |           |   |
|-----------|---|
| ■ 評価対象事業： | 『湘南・横浜若者サポートステーション』<br>(働くことや自立に不安を抱えていたり、悩みをもつ15歳～39歳の若者への支援)  |
| ■ 評価対象期間： | 2015年度  |
| ■ 評価対象者数： | 141名 (2015年度の同サポートステーション新規登録者で、<br>3ヶ月以上支援を継続している当事者)   |
| ■ 事業概要：   | キャリアコンサルタント等による専門的な相談、コミュニケーション訓練等によるステップアップ、協力企業への就労体験等といった、就労に向けた支援を行っている。また、初回面談等での保護者からの問い合わせや相談のほか、家族に対する定期的な現状の報告や共有、勉強会や相談会等を実施している。 |

【ステップ1：ロジックモデルをつくる】

◆ロジックモデル



【ステップ2：インパクトマップをつくる】

◆インパクトマップ

(一部)

結果・成果の別	ステイクホルダー 【誰が】	評価の問い 【どう変化する】	測定方法	指標
①結果、②初期成果、 ③中期成果、④最終 成果	誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	どこで・どうやって情報を収集するか？	どうやって測定するか？
初期成果	支援対象者	社会性が向上する	クラウド入力	挨拶 敬語の使用 適切な報連相 適切な身だしなみ
		悩みの共有ができ、その機会が増加する	支援対象者アンケート	【問1】悩みを相談できる相手の有無 【問2】対人関係の不安 【問3】働くことへの不安
		自身の課題が整理できる	クラウド入力 支援対象者アンケート	自己理解 【問14】自己理解
		コミュニケーション能力が向上する	クラウド入力	他者との会話の機会 他者への興味 表情の変化
		生活の改善	クラウド入力 支援対象者アンケート	外出頻度 外出範囲 生活リズムの安定 食事リズム・バランスの安定 運動量の安定 家族関係の良好さ 健康状態の良好さ 【問4】外出機会の頻度 【問5】外出範囲 【問18】家族からの理解はあるか 【問19】家族からの支援はあるか

【ステップ 3：データを収集する】【ステップ 4：データを分析する】

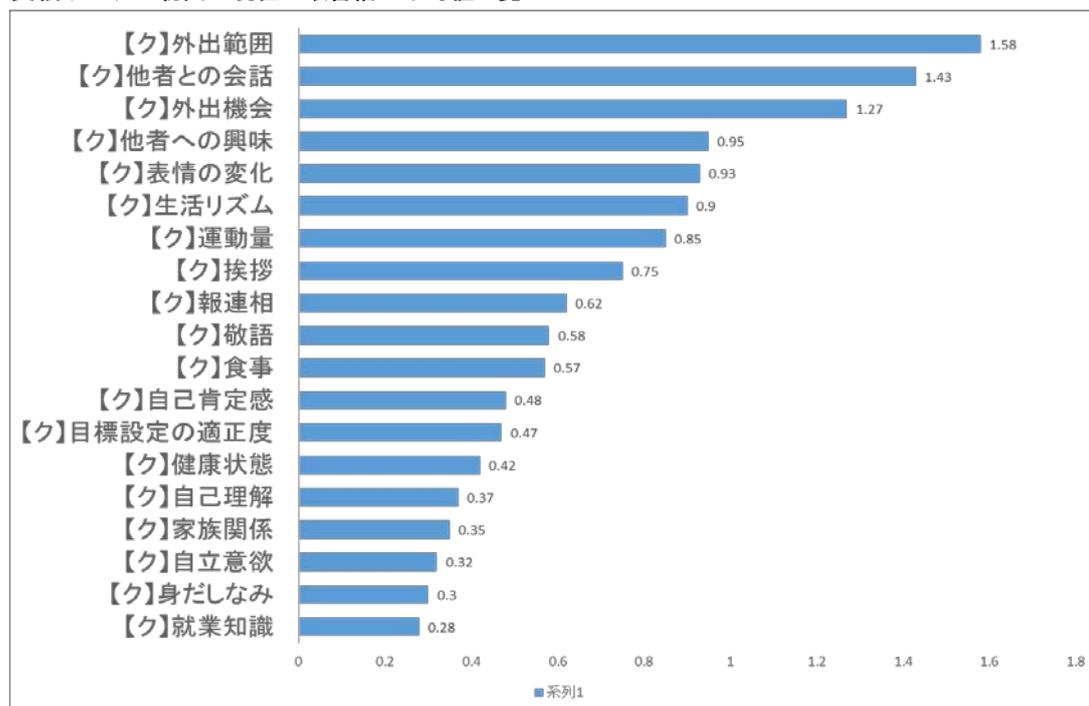
◆分析結果例

・実績データ 平均値 (Before-After 分析)

質問項目	平均		平均値の差
	初回来所時	現在	
外出機会は持っているか？	2.73	3.65	0.92***
外出範囲は広がっているか？	2.36	3.52	1.16***
生活リズムは安定しているか？	2.71	3.43	0.72***
食事リズム・バランスは安定しているか？	2.97	3.43	0.45***
運動量は安定しているか？	2.50	3.26	0.76***
家族関係は良好か？	3.00	3.32	0.32***
健康状態は良好か？	2.99	3.33	0.34***
他者との会話の機会はあるか？	2.32	3.34	1.02***
他者への興味はあるか？	2.49	3.23	0.74***
表情の変化はあるか？	2.69	3.42	0.74***
挨拶はできるか？	3.11	3.72	0.61***
敬語は使えるか？	3.21	3.64	0.43***
報連相は適切にできるか？	2.77	3.26	0.49***
身だしなみは適切か？	3.43	3.65	0.23***
自己肯定感	2.11	2.53	0.43***
自己理解の度合い	2.10	2.44	0.34***
目標設定の適正度	2.42	2.61	0.19**
就業知識	2.24	2.49	0.26***
自立意欲	2.55	2.80	0.25**
求職活動の進行度	2.00	2.71	0.71***

5段階リッカートの平均値を算出。対応のあるサンプルの検定(両側)を行い、 $p<.001$ \*\*\*、 $p<.01$ \*\*、 $p<.05$ \*とした。

・実績データの初回～現在の改善幅の平均値一覧



\* 同様にアンケート調査によるデータ収集、分析を実施。

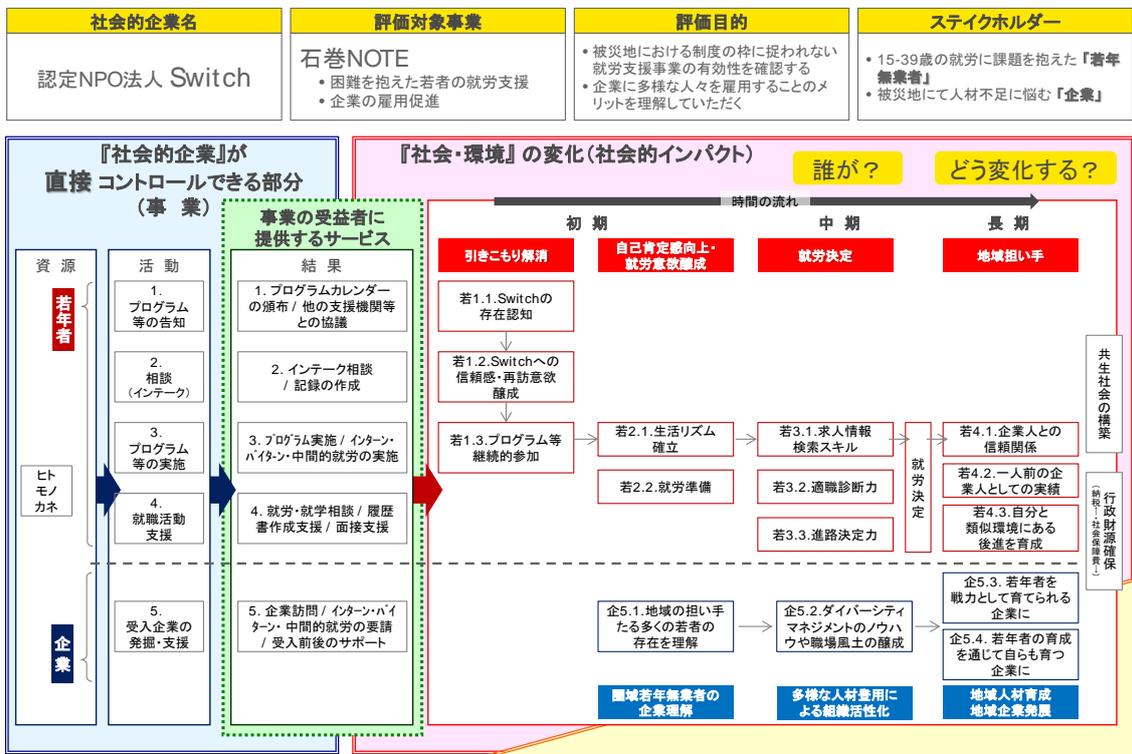
## ② 認定特定非営利活動法人 Switch

【ステップ0：評価目的・ステークホルダーを確認する】

■ 評価対象事業：	『ユースサポートカレッジ石巻 NOTE』 (困難を抱えた若者の就労、就学支援、企業の雇用促進)
■ 評価対象期間：	2014～2015 年度
■ 受益者数：	2014 年 50 名 2015 年 82 名 (初回面談実施、登録者数)
■ 事業概要：	2013 年 6 月に石巻駅前にて、こころに不調を抱えた若者の就労・就学を幅広くサポートするカレッジとしてスタート。地域企業とのインターンシッププログラム、有給職場体験プログラムを企画し、地域の「はたらく」をサポートするとともに、IT 格差解消のためのパソコン講座の開設や、就活講座、そして自分と向き合うところを学ぶ講座等、これからの東北で生きていくために必要なスキルを「まなぶ」ためのプログラムを展開し、圏域若年者の「生きる力」を育てる。

【ステップ1：ロジックモデルをつくる】

### ◆ロジックモデル



【ステップ2：インパクトマップをつくる】

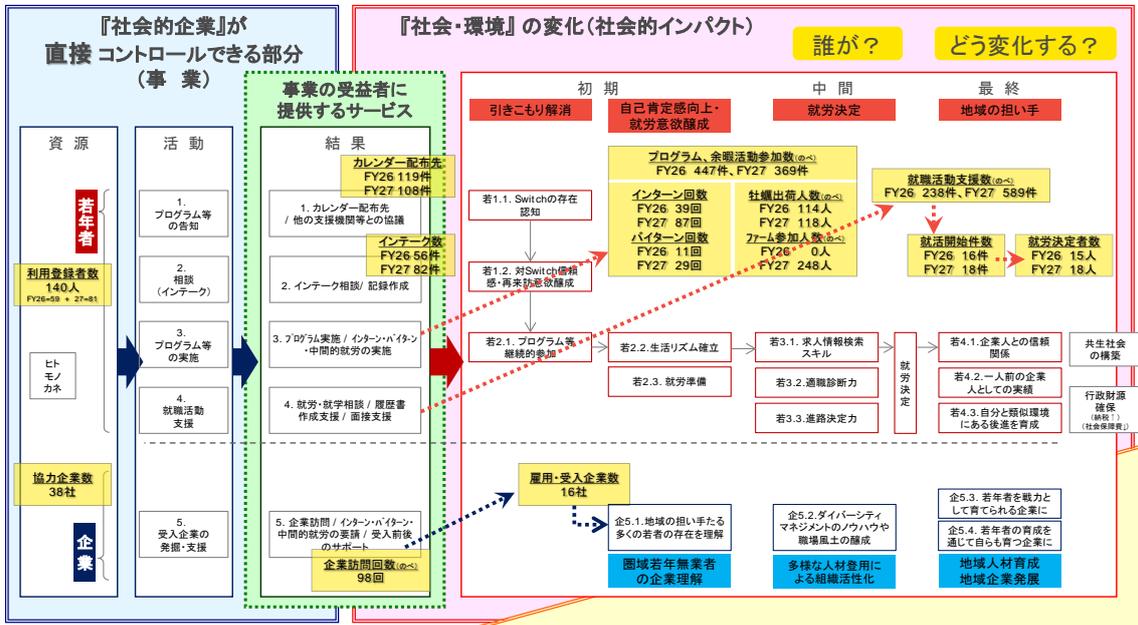
◆インパクトマップ

結果・成果の別	ステイクホルダー【誰が】 誰が変化するのか？ 誰に影響を与えるのか？	期待される変化【どうなる】 どのような変化をもたらすのか？ どのような変化をもたらしたいのか？	指標 どうやって測定するか？	データ どこで、どうやって情報を収集するか？ (アンケートの場合は設問内容も)
<b>A</b> ①②③④⑤	若年無業者（利用者）	引きこもり状態が解消する。	外出の回数が増えた者の数・割合 (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問3②
1	1.1 初期成果 若年無業者	石巻 NOTE の存在を知る。	地域の若年無業者における Switch の認知度	——
2	1.2 初期成果 若年無業者（利用者）	石巻 NOTE の担当者に信頼感を持つ。 再び石巻 NOTE に来ようと思う。	石巻 NOTE スタッフへの信頼感・継続相談意向	利用者アンケート 問7
3	2.1 初期成果 若年無業者（利用者）	石巻 NOTE プログラム等に継続的に参加する。	石巻 NOTE プログラム参加回数・人数	実績データ
<b>B</b> ①②③④⑤	若年無業者（利用者）	自己肯定感が向上し、就労に向けて意欲が醸成される	働く自信がついた者の数・割合 (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問4①～③
3	2.2 中間成果 若年無業者（利用者）	生活リズムが確立する。	起床、食事、睡眠等の規則正しさ (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問4①
4	2.3 中間成果 若年無業者（利用者）	働く意欲・働く自信が身につく。	働くことの意欲・働くことの自信 (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問4②③
<b>C</b> ①②③④⑤	若年無業者（利用者）	就職活動を始める	就職活動をしている者の数・割合	利用者アンケート 問5⑤
<b>D</b> ①②③④⑤	若年無業者（利用者）	就労が決定する	就労決定者数	実績データ
5	3.1 中間成果 若年無業者（利用者）	自分で求人情報を検索するスキルが身につく。	仕事についての情報を調べられる (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問5③
6	3.2 中間成果 若年無業者（利用者）	自分に合う業種、職種を見つける力が身につく。	どんな仕事に就きたいかのイメージ (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問5①
7	3.3 中間成果 若年無業者（利用者）	自分で将来の就労見通しを立てられる。	仕事に必要な知識・技能のイメージ (石巻 NOTE 参加前・後)	利用者アンケート 問5②
<b>E</b> ①②③④⑤	若年無業者（就労決定者）	地域の担い手として活躍する	若者の地域貢献度合い	利用者アンケート 問6①～④
8	4.1 最終成果 若年無業者（就労決定者）	就労先の上司・同僚等と信頼関係を結ぶ。	上司や同僚との信頼関係の評価 職場で必要とされていると感じるか	利用者アンケート 問6①②
9	4.2 最終成果 若年無業者（就労決定者）	一人前の企業人として実績を積む。	この会社で働き続けるイメージ	利用者アンケート 問6④
10	4.3 最終成果 若年無業者（就労決定者）	自分と類似の環境にある後進を育成する。	自分と同じ状況におかれた人の手助けを をしたいと思うか	利用者アンケート 問6③

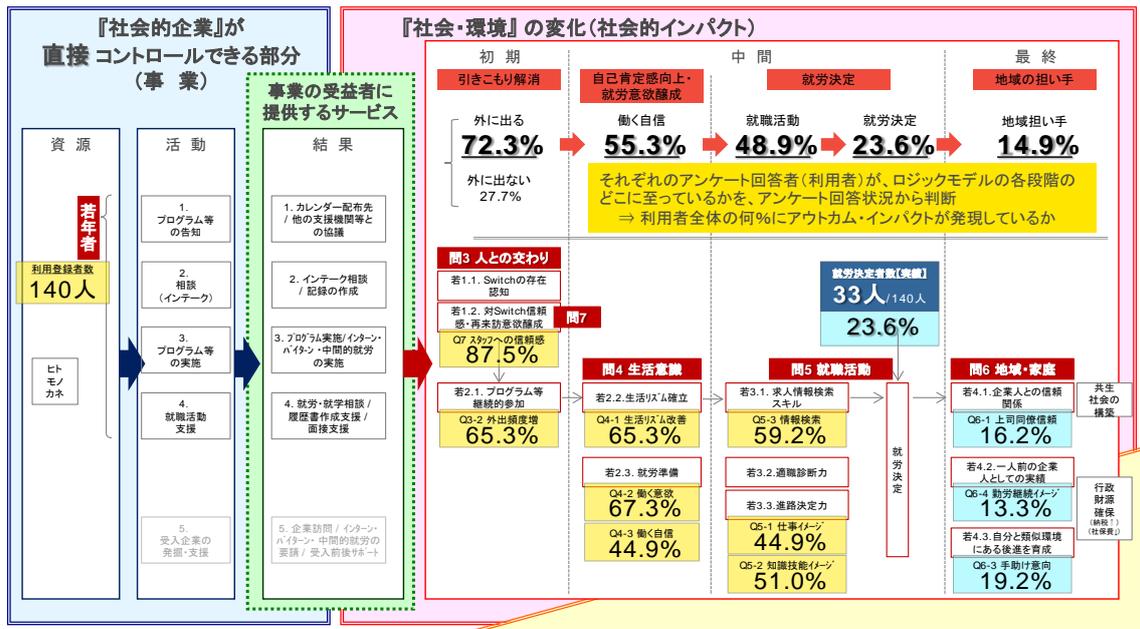
【ステップ3：データを収集する】【ステップ4：データを分析する】

◆分析結果例

・データ収集結果のロジックモデルへの反映



・ アンケート調査のロジックモデルへの反映

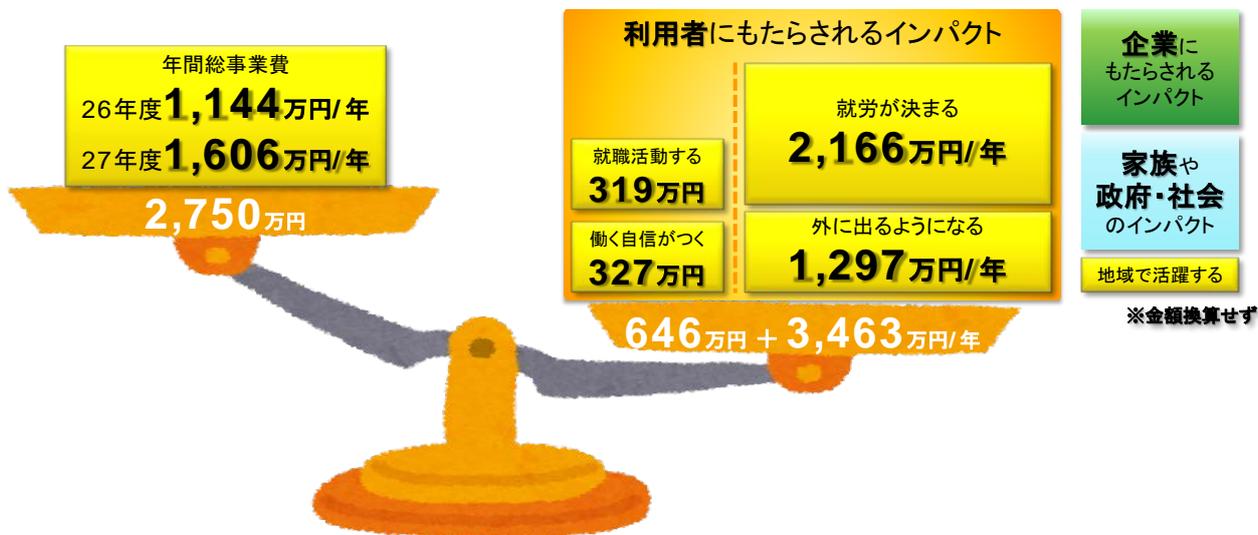


・ インパクトの金銭価値換算の試み

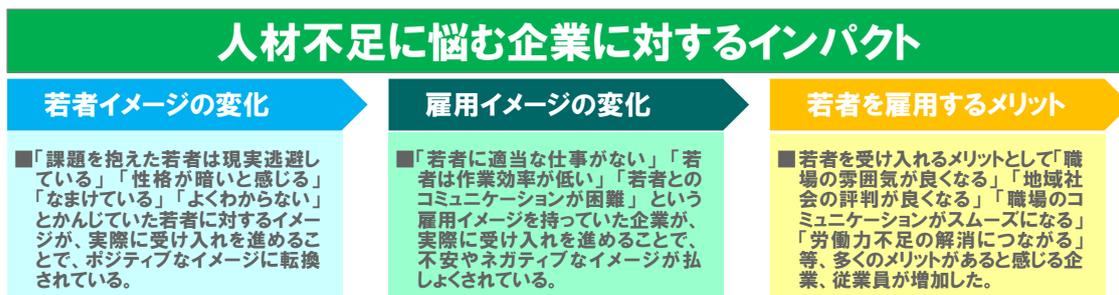
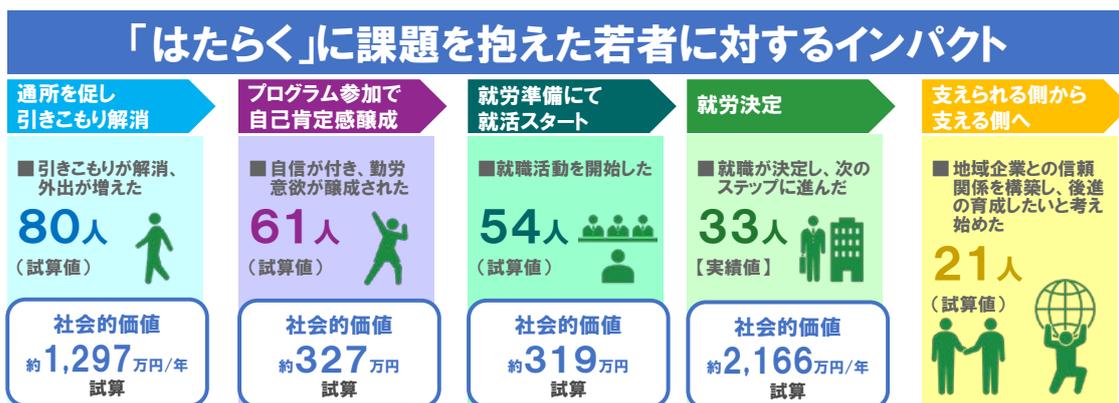
	引きこもり解消	自己肯定感向上・就業意欲醸成	就職活動	就業決定	地域の担い手
<b>アンケート結果</b> 利用登録者数 (100%)	外に出るようになる <b>72.3%</b>	働く自信がつく <b>55.3%</b>	就職活動する <b>48.9%</b>	就業が決まる <b>30.0%</b>	地域等で活躍する <b>14.9%</b>
<b>A 人数</b> 110人 【実績・2年間】 一定の活動実績	80人 (試算値)	61人 (試算値)	54人 (試算値)	33人 【実績・2年間】 正社員 パート・アルバイト 福祉的就労+分類不明 4人 23人 6人	21人 (試算値)
<b>B 金銭的代理指標</b>	外出することで新たに生まれた経済活動 =外出が増えたと回答した者の回答値 ・外出回数(増分) <b>6.8</b> 回/月 ・支出金額 <b>3,306</b> 円/回 ※利用者アンケートQ3-2	自己肯定感・勤労意欲を醸成する代替サービスの市場価値 ・カウンセリング費 <b>4,850</b> 円/回 ・認知行動療法(CBT)面接数 <b>18</b> 回 ※日本臨床心理士会「第7回臨床心理士の動向ならびに意識調査」、厚労省「うつ病の認知療法・認知行動療法治療者用マニュアル」	就職活動を支援する代替サービスの市場価値 ・有料キャリアカウンセリング費 <b>16,200</b> 円/時×7時間 ※特定非営利法人キャリアカウンセリング協会が行う場合のキャリアカウンセリング費用。時間数は仮に終日実施したと仮定して設定。	○正社員(一般労働者) ・宮城・20~24歳の平均年収 <b>283万円/年</b> ○パート・アルバイト(短時間労働者) ・宮城の平均年収 <b>113万円/年</b> ※平成27年賃金構造基本統計調査 ○福祉的就労 ・宮城県内就労支援事業所(就労継続支援A型)の平均工賃(賃金) <b>59,873円/月×12か月</b>	金銭換算せず
<b>C 死荷重×寄与率</b>	<b>59.9%</b>	<b>61.5%</b>	<b>52.1%</b>	<b>52.1%</b>	<b>67.2%</b>
「それぞれの変化は、石巻NOTEに参加したことがきっかけかと思うか」との問いに対する5段階評価の換算値	(Q3-6)	(Q4-4)	(Q5-6)	(Q5-6)	(Q6-6)
<b>A×B×C 金銭的価値【試算】</b>	<b>1,297万円/年</b> ※毎年発生	<b>327万円</b>	<b>319万円</b>	<b>2,166万円/年</b> ※毎年発生 正社員 590万円/年 パート・アルバイト 1,351万円/年 福祉的就労 225万円/年	—

【ステップ5：事業改善につなげる・報告する】

・ 金銭価値換算の報告の試み



・ 定量、定性を併せた報告の試み



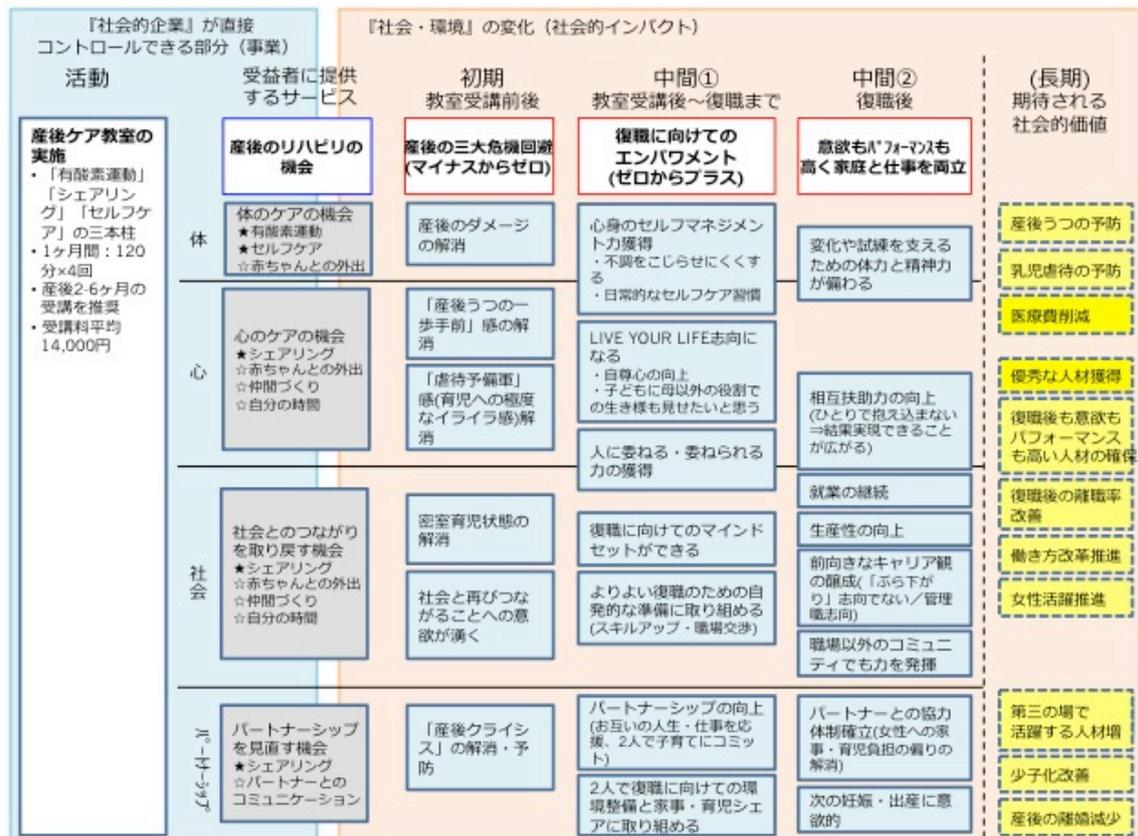
### ③ マドレボニータ

【ステップ0：評価目的・ステークホルダーを確認する】

■ 評価対象事業：	『産後ケア教室（4回コース）』 (産後の女性を対象としたプログラム)
■ 評価対象期間：	2013年6月～2016年3月
■ 評価対象者数：	約4000名（試算値）
■ 事業概要：	産後の「心」と「体」の健康に必要な3つの柱である有酸素運動、対話、セルフケアの3つで構成されるプログラム。4回を1クールとする1か月間で実施。

【ステップ1：ロジックモデルをつくる】

#### ◆ ロジックモデル



【ステップ2：インパクトマップをつくる】

◆インパクトマップ

(一部)

結果・成果の別 ①初期成果 ②中期成果 ③長期成果	ステイホルダー(誰か)	評価の問い(どう変化するか)	指標	データ		どこで/どうやって情報を収集するか?
				受講者	非受講者	
①初期成果 【マイナスからゼロ】	産前/産後の女性	マイナスからゼロへの変化	「産後ケア教室」の受講前と産後の変化の有無	「産後ケア教室」の受講前と産後の変化の有無	産後6か月頃と産後6か月ころの変化の有無	MEBAアンケートで測定 ①二地点の変化をみる場合は「産後ケア教室受講前」「産後6か月頃」「産後6か月頃」で測定 (with)産前は「産後2か月頃」「産後6か月頃」で測定)
1		①産後のダメージの解消	「産後の体のダメージ」の解消具合(体の痛み/発熱や発熱の頻度の違和感/肩もれや寝た時のマイナートラブル)	解消した+やや解消した +体の痛み 85.2% +骨盤や筋肉の違和感 84.7% +マイナートラブル 60.5%	解消した+やや解消した +体の痛み 63.1% +骨盤や筋肉の違和感 64.2% +マイナートラブル 64.4%	MEBAアンケートで測定 解消した+やや解消した/あまり解消しなかった+解消しなかった/もともとそのようなダメージはなかった
3		②「産後うつ」の一手前手の解消	「産後うつ」の症状の変化	全く産後うつではなかった +59.5%→81.0%	全く産後うつではなかった +57.3%→71.3%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) 「産後うつ」の診断を受けていないが産後うつだったと思う/「産後うつ」の一手前だったと思う/全く産後うつではなかった
4		③「産後うつ」の一手前手の解消	育児への嫌悪なイライラ感や不安感の無無と変化	あまりなかった+なかった +31.5%→61.7%	あまりなかった+なかった +20.9%→41.6%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) あった/ややあった/あまりなかった/なかった
5		④「産後うつ」の一手前手の解消	自分の子ども(上の子ども)に対して「産後」の有無と変化	産後していないし、してしまいそうになる不安をおぼえたこともなかった +46.7%→59.7%	産後していないし、してしまいそうになる不安をおぼえたこともなかった +62.1%→59.7%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) 産後をたがひたしてしまったり/産後をしていないことがあった/産後をしていないし、してしまいそうになる不安をおぼえたこともなかった
6		⑤密着育児状態の解消	1時間以上の1週あたり以上の外出回数の変化	3回以上 +37.3%→65.8% ほとんどなし +22.3%→2.0%	3回以上 +23.9%→58.1% ほとんどなし +4.3%→7.4%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) 3回以上/2回程度/1回程度/ほとんどなし
8		⑥社会と再びつながることへの意識が強く	社会とのつながりを取り戻そうという意識の変化	あった+ややあった +74.3%→84.2% あまりなかった+なかった +25.1%→5.8%	あった+ややあった +51.9%→82.3% あまりなかった+なかった +48.1%→17.1%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) あった/ややあった/あまりなかった/なかった
9		⑦「産後うつ」の一手前手の解消	「産後うつ」に向けての積極的な気持ちの無無と変化	もっていた+ややもっていた +57.0%→70.0% あまりもってなかった+もってなかった +31.0%→7.8%	もっていた+ややもっていた +42.2%→26.8% あまりもってなかった+もってなかった +42.2%→26.8%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) もっていた/ややもっていた/あまりもってなかった/もってなかった
10		⑧「産後ケア」の解消/予防	パートナー(配偶者)との平日1日の平均会話時間の増減	15分未満 +23.0%→10.4% 15分以上 +77.0%→87.6%	15分未満 +23.8%→18.1% 15分以上 +76.2%→81.9%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) 15分未満/15分以上(1時間未満/1時間以上(1時間未満/1時間以上/パートナーはいない)
11		⑨「産後ケア」の解消/予防	パートナーに自分の言葉を伝えている/伝えようとしているようになったかどうか	伝えられるようになった+やや伝えられるようになった +84.1% あまり伝えられるようになった+全く伝えられるようになった+全く伝えられるようになった +15.2%	伝えられるようになった+全く伝えられるようになった +28.1% あまり伝えられるようになった+全く伝えられるようになった +28.1%	MEBAアンケートで測定 伝えられるようになった/やや伝えられるようになった/あまり伝えられるようになった/全く伝えられるようになった/パートナーはいない
12		⑩「産後ケア」の解消/予防	パートナーを「本当に愛している」と実感する頻度の変化	実感していた+やや実感していた +58.2%→82.6% あまり実感していなかった+実感していなかった +41.7%→17.4%	実感していた+やや実感していた +42.4%→50.4% あまり実感していなかった+実感していなかった +57.6%→49.6%	MEBAアンケートで測定(二地点の変化をみる) 実感していた/やや実感していた/あまり実感していなかった/実感していなかった/パートナーはいない
②中期成果 【ゼロからプラス】	産前/産後の女性	ゼロからプラスの変化	育児中の変化の有無			MEBAアンケートで測定 「産後ケア教室受講以降」育児体験済みで「産後ケア教室」を受講した
13		①自身のセルフマネジメント力(自律)の向上	自律を身につけるための、または自律の向上を促すための活動(例えば、ヨガやエクササイズ)の有無と変化	心がけるようになった+やや心がけるようになった +79.0% あまり心がけるようになった+心がけるようになった +40.6%	心がけるようになった+やや心がけるようになった +60.6% あまり心がけるようになった+心がけるようになった +40.6%	MEBAアンケートで測定 心がけるようになった/やや心がけるようになった/あまり心がけるようになった/心がけるようになった/パートナーはいない
15		②「産後ケア」の解消/予防	10分以上自律活動(ヨガやエクササイズ)を月1回以上もっているかどうか	もつようになった+ややもつようになった +59.4% あまりもつようになった+もつようになった +40.6%	もつようになった(月1回以上)/ややもつようになった(月1回程度)/あまりもつようになった(月1回程度)/もつようになった(月1回以上)もつようになった +70.7%	MEBAアンケートで測定 もつようになった(月1回以上)/ややもつようになった(月1回程度)/あまりもつようになった(月1回程度)/もつようになった(月1回以上)もつようになった
16		③「産後ケア」の解消/予防	「LIVE YOUR LIFE」志向になる/「自分自身の人生」を大切にしたいという思いをもつ	感じるようになった+やや感じるようになった +82.8% あまり感じるようになった+感じるようになった +17.2%	感じるようになった+やや感じるようになった +60.9% あまり感じるようになった+感じるようになった +48.5%	MEBAアンケートで測定 感じるようになった/やや感じるようになった/あまり感じるようになった/感じるようになった/パートナーはいない
18		④「産後ケア」の解消/予防	「私は今、自分らしく生きている」と感じるようになったかどうか	感じるようになった+やや感じるようになった +73.7% あまり感じるようになった+感じるようになった +46.1%	感じるようになった+やや感じるようになった +53.9% あまり感じるようになった+感じるようになった +46.1%	MEBAアンケートで測定 感じるようになった/やや感じるようになった/あまり感じるようになった/感じるようになった/パートナーはいない
19		⑤「産後ケア」の解消/予防	「子育てのほかに楽しみがある」と感じるようになったかどうか	感じるようになった+やや感じるようになった +86.2% あまり感じるようになった+感じるようになった +13.8%	感じるようになった+やや感じるようになった +61.9% あまり感じるようになった+感じるようになった +38.1%	MEBAアンケートで測定 感じるようになった/やや感じるようになった/あまり感じるようになった/感じるようになった/パートナーはいない
20		⑥「産後ケア」の解消/予防	子ども(母親)以外の関係(社会/家族)から自分自身を大切にしたいという気持ちになったかどうか	わいた+ややわいた +81.4% あまりわいた+わかなかった +18.6%	わいた+ややわいた +77.7% あまりわいた+わかなかった +22.3%	MEBAアンケートで測定 わいた/ややわいた/あまりわいた+わかなかった/わかなかった
21		⑦「産後ケア」の解消/予防	「人になられる/愛られる力の獲得」	愛られるようになった+やや愛られるようになった +86.0% あまり愛られるようになった+愛られるようになった +14.0%	愛られるようになった+やや愛られるようになった +63.3% あまり愛られるようになった+愛られるようになった +36.7%	MEBAアンケートで測定 愛られるようになった/やや愛られるようになった/あまり愛られるようになった/愛られるようになった/パートナーはいない
22		⑧「産後ケア」の解消/予防	近所に家族以外で子育てなどを助け合える仲間ができたかどうか	できた+ややできた +70.4% あまりできなかった+できなかった +29.6%	できた+ややできた +46.4% あまりできなかった+できなかった +53.6%	MEBAアンケートで測定 できた/ややできた/あまりできなかった/できなかった/パートナーはいない
23		⑨「産後ケア」の解消/予防	「産後」に向けてのサポートが得られるようになったかどうか	できた+ややできた +82.0% あまりできなかった+できなかった +18.0%	できた+ややできた +59.6% あまりできなかった+できなかった +40.4%	MEBAアンケートで測定 できた/ややできた/あまりできなかった/できなかった
24		⑩「産後ケア」の解消/予防	「産後」に向けてのサポートが得られるようになったかどうか	なった+ややなった +77.7% あまりならなかった+ならなかった +22.3%	なった+ややなった +59.6% あまりならなかった+ならなかった +40.4%	MEBAアンケートで測定 なった/ややなった/あまりならなかった/ならなかった

【ステップ3：データを収集する】【ステップ4：データを分析する】

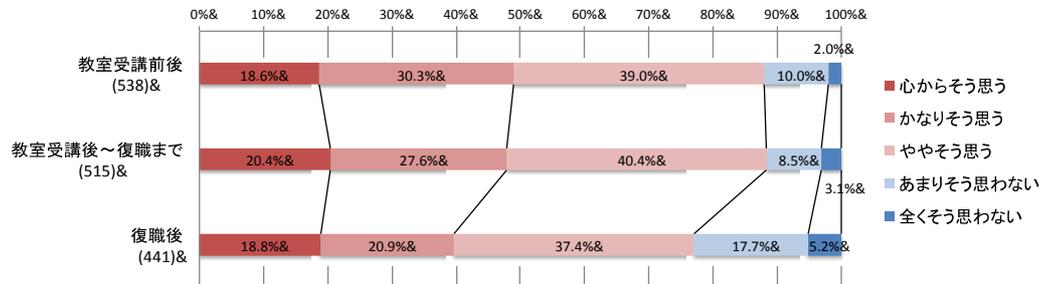
◆分析結果例

『社会的企業』が直接コントロールできる部分(事業)		『社会・環境』の変化(社会的インパクト)			統計的有意差 *** (0.1%) / ** (1%) / * (5%)
活動	受益者に提供するサービス	初期 教室受講前後	中間① 教室受講後～復職まで	中間② 復職後	(長期) 期待される社会的価値
<b>産後ケア教室の実施</b> ・「有酸素運動」「シェアリング」「セルフケア」の三本柱 ・1ヶ月間：120分×4回 ・産後2-6ヶ月の受講を推奨 ・受講料平均14,000円	<b>産後のリハビリの機会</b> 体のケアの機会 ★有酸素運動 ★セルフケア ☆赤ちゃんとの外出	<b>産後の三大危機回避(マイナスからゼロ)</b> 1-1:産後のダメージ解消 <b>85.9%</b> /63.1% *** (体の痛み) <b>84.7%</b> /64.2% *** (背盤や筋肉の違和感) <b>60.5%</b> /64.4% (マイナートラブル)	<b>復職に向けてのエンパワメント(ゼロからプラス)</b> 2-1:心身のセルフマネジメント力獲得 <b>92.0%</b> /60.6% *** (日常的なセルフケア習慣) <b>59.4%</b> /29.3% *** (体を動かす機会)	<b>意欲もパフォーマンスも高く家庭と仕事を両立</b> 3-1:変化や試練を支えるための体力が備わる <b>65.1%</b> /46.3% ***	産後うつ予防
		1-2:「産後うつ」の一手前「感」の解消 <b>53.6%</b> /42.8% **	2-2:LIVE YOUR LIFE 志向へ <b>82.8%</b> /50.5% *** (自分を好ましく感じる) <b>79.7%</b> /53.9% *** (自分らしく生きている) <b>86.2%</b> /61.9% *** (子育て以外にも生きがい) <b>79.7%</b> /61.9% *** (子に母以外の役割での生き様も見せたい)	3-2:変化や試練を支えるための精神力が備わる <b>86.8%</b> /75.3% **	乳児虐待予防
		1-3:「虐待予備軍」感(育児への極度なイライラ感)解消 <b>44.3%</b> /23.5% *** (極度なイライラ・不安感) <b>25.3%</b> /13.2% *** (虐待してしまおう/しないが不安をおぼえる)	2-3:人に委ねる・委ねられる力の獲得 <b>86.9%</b> /73.7% *** (家事育児を抱え込まない) <b>70.4%</b> /46.9% *** (近所に支えられる仲間)	3-3:相互扶助力の向上(ひとりで抱え込まない⇒結果実現できることが広がる) <b>75.2%</b> /62.5% *	医療費削減
		1-4:密室育児状態の解消 <b>45.1%</b> /44.9%	2-4:復職に向けてのマインドセットができる <b>92.0%</b> /75.1% *** (復職への気持ちの準備) <b>77.3%</b> /52.6% *** (育休中に自分の価値を高めよう)	3-4:復職先での就業の継続 <b>87.8%</b> /87.8%	優秀な人材獲得
<b>社会とのつながりを取り戻す機会</b> ★シェアリング ☆赤ちゃんとの外出 ☆仲間づくり ☆自分の時間	1-5:社会と再びつながることへの意欲が湧く <b>75.7%</b> /38.6% *** (復職への前向きな気持ち) <b>77.4%</b> /64.9% *** (社会とのつながり)	2-5:よりよい復職のための自発的な準備に取り組む <b>46.2%</b> /30.6% *** (自費で自己啓発) <b>31.8%</b> /24.6% * (職場面談を自ら希望) <b>22.1%</b> /11.7% *** (ボランティア活動企画運営)	3-5:生産性の向上(業務量を減るも質上がる) <b>117.0</b> /109.4 (時間当たり仕事の生産性) 3-6:前向きなキャリア観醸成 <b>78.6%</b> /71.7% * (高キャリア志向) <b>(6.2%)</b> /13.6% * (ぶら下がり志向※)	3-7:職場以外のコミュニティでも力を発揮 <b>21.7%</b> /15.6% * (NPOでの活動)	復職後も意欲もパフォーマンスも高い人材の確保 復職後の離職率改善 働き方改革推進
	1-6:「産後クライシス」の解消 <b>58.8%</b> /19.2% *** (パートナーを本当に愛している実感) <b>19.3%</b> /14.6% * (会話時間増) <b>84.1%</b> (気持ちや意志を伝えられる)	2-6:パートナーシップの向上 <b>77.9%</b> /53.2% * (人生や仕事についての話もする) <b>87.9%</b> /82.6% (自分の時間作り) (パートナーが協力)	3-8:パートナーとの協力体制確立 <b>87.0%</b> /79.5% **	第三の場で活躍する人材増	
	2-7:2人で復職に向けての環境整備と家事・育児シェアに取り組める <b>70.9%</b> /56.0% ***	3-9:次の妊娠・出産に意欲的 <b>48.8%</b> /54.5% (妊娠出産済+意欲的でパートナーと話し合っている+意向定まらずもパートナーと話し合っている)	3-9:次の妊娠・出産に意欲的 <b>48.8%</b> /54.5% (妊娠出産済+意欲的でパートナーと話し合っている+意向定まらずもパートナーと話し合っている)	少子化改善	
	満足のいく育休期間を過ごせた <b>92.2%</b> /83.5% ***	出産から1年以内に復職 <b>52.2%</b> /46.6% *	出産から1年以内に復職 <b>52.2%</b> /46.6% *	産後の離婚減少	
教室受講の寄与率→	<b>63.3%</b>	<b>63.4%</b>	<b>57.6%</b>		

©2017 MadreBonita

・ 寄与率の算出

Q.回答してきた変化は、「産後ケア教室」を受講したことがきっかけだと思う



寄与率

初期／教室受講前後	中間①／教室受講後～復職まで	中間②／復職
<b>63.3%</b>	<b>63.4%</b>	<b>57.6%</b>

※「心からそう思う」:100%、「かなりそう思う」:75%、「ややそう思う」:50%、「あまりそう思わない」:25%、「全くそう思わない」:0%の寄与率と考え、回答者数にこれらの寄与率を乗じて平均を出した。

【ステップ5：事業改善につなげる・報告する】

・ 事業への活用例

御社の復職支援、“復職後から”になっていませんか？  
**【産育休中】からの支援が有効です**  
 社会的インパクト評価にて実証

内閣府委託調査事業で明らかに  
なりました

産育休中にマドレボニータの「産後ケア教室」を受講  
↓  
産育休中から復職後にかけて  
**復職に良い影響をもたらす変化**

**38項目中32項目で非受講者との統計的優位差を確認**

**確認された「社会的インパクト」**

出産後にその人が抱える課題が解決され、社会復帰に向けての意欲と応用可能な力を獲得し、必要なアクションがとれるようになる

STEP1／教室受講後	STEP2／復職まで	STEP3／復職後
出産後に直面する喫緊の課題の解決ができる	成功体験 → 意識変容 ↓ 復職に向けての土台が作られる (意欲、行動)	復職後も使える応用可能な力となる

望ましくない状況の人を減らす→リスクヘッジ、ボトムアップ

復職後はもちろん、人生にも**“応用可能な力”**を獲得

- 立ち返れる「基本」の軸
- 不安を乗り越える技術
- 陳腐化しないフレームワーク

「不安が解消されても、また別の不安が出てくる可能性はずっとあるが、それを乗り越える術を知ったことが、復職に向けての気持ちに大きな影響を与えた。」(受講者インタビューより)

**良い変化があった人の比率を受講者／非受講者で比較 (抜粋)**

初期受講前後	1-6:「産後クライシス」の解消 <b>58.8%</b> (19.2% ***)	中間①復職まで	2-1:心身のセルフマネジメント力獲得 <b>92.0%</b> (55.8% ***)
Q/パートナーが「本音に近しい」と実感するようになりましたか？	19.2% (非受講者との差 39.6ポイント) * 実感するようになった * 実感しなくなった	Q/復職のためや不調の解消を求めているセルフケアを心がけるようになりましたか？	60.6% (非受講者との差 31.4ポイント) * 心がけるようになった * 心がけるようになったが継続できていない * 心がけるようになったが継続できていない
中間②復職後	2-4:復職に向けての mindset ができる <b>77.3%</b> (52.8% ***)	中間②復職後	3-8:パートナーとの協力体制確立 <b>87.0%</b> (79.5% **)
Q/産育休中に産後の自分の価値を高めることをしようという気持ちになりましたか？	52.6% (非受講者との差 24.7ポイント) * なった * 中々なかった * 全然なかった	Q/パートナーとの協力体制が保たれていると感じますか？	79.5% (非受講者との差 7.5ポイント) * 保たれている * 保たれているが継続できていない * 保たれているが継続できていない

※アンケート回答者数：受講者538名、非受講者351名/各グラフでは「変わらない(もともと良い状態だった)」という回答者は除いて集計。詳しくはレポートをご参照ください。

**詳細レポートを内閣府ホームページで公開しています**  
<https://www.npo-homepage.go.jp/>  
 (TOP > 統計調査等 > その他の調査 > 社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査)

この評価は内閣府「社会的インパクト評価の実践による人材育成・組織運営力強化調査」の一環として実施されました。評価結果の詳細、受講者と導入企業へのインタビューをまとめたレポートはサイトから閲覧、ダウンロードできます。

効果を実証されたプログラムを復職支援施策に導入！  
**マドレボニータの法人向けプランをご活用ください**

- 直接的なケアが難しい産育休中からのサポートを実現
- 全国約60箇所を受講：ベストタイミングに、自宅近くで
- 当事者以外も巻き込む講座も好評

お問い合わせ: [info@madrebonita.com](mailto:info@madrebonita.com)

### 3. 本調査により明らかになった課題等

#### (1) 社会的企業による社会的インパクト評価実践のまとめ

本調査では、社会的企業 3 社の評価の実践を通じて、社会的企業が評価に取り組むことによる成果と課題を明らかにした。主な成果として、評価に取り組んだ社会的企業 3 社のインパクトの見える化と各社の学び・業務の改善、評価実践上の課題の特定が挙げられる。

評価実践上の課題としては、大きく分けると、①評価における「悩み」と「つまずき」のポイントと、②評価のあり方に関する課題がある。

#### (評価における「悩み」と「つまずき」)

①は本調査において各社が評価のそれぞれのステップで実際にぶつかった課題であり、他の社会的企業においても生じうるものであり、評価のステップごとに以下があげられる。

#### 【ステップ0：評価目的・ステークホルダーを確認する】

##### a) 評価目的として何を掲げるか

- ・評価の目的によって、調査対象や評価手法が大きく異なり得ることから、評価に取り組む最初の段階で目的を検討・確認しておくことが非常に重要であること。
- ・社会的企業にとっては、評価の際に念頭におくステークホルダーは誰かということを確認し、それを踏まえて評価の目的として何を掲げるか検討する必要があること。

##### b) 評価対象をどのように設定するか

- ・特に、組織のミッションや目標の達成に多数の事業が関連している場合は、どの事業を評価対象として「切り出す」のかの判断が難しいこと。

#### 【ステップ1：ロジックモデルをつくる】

##### c) 評価の対象とする「インパクト」の定義は何か

- ・社会的企業自らの評価対象となるインパクトを設定するに当たっての考え方や方法について整理することが必要であること。

##### d) ロジックモデルはどこまでできたら完成なのか

- ・誰もがたどり着くべき「答え」があるわけではなく、どのように社会的企業自身が納得感を持ち、ステークホルダーに対して説明可能なものを作成できるかは、一定程度の評価の実践経験がないと容易ではないこと。

#### 【ステップ2：インパクトマップをつくる】

##### e) 指標をどのように設定するか

- ・何をもって成果を測るかの判断は容易ではなく、一定の知識や経験が必要であること。

#### 【ステップ3：データを収集する】

##### f) どのようなデータを収集するか

- ・アンケート調査の設計などにおいて、「インパクトを測るために必要なデータ」と「（インパクトの評価には必ずしも必要ではないが）組織として知りたいデータ」が混在し、設問数が膨大になり得ること。評価の実施に必要な情報を見極めることは言って一般社団法人祇園祭布袋山保存会 相談役の経験が必要なこと。

**g) 組織内に活用可能なデータはあるか／組織内での実績データをどのように蓄積・活用するか**

- ・評価に活用できる内部の実績データの蓄積が有用であること。

**h) アンケート調査票をどのように設計するか**

- ・データ分析を念頭に置きつつ、設問・選択肢を十分に吟味して調査票を設計する必要があり、専門的な知識・技術が必要であること。

**i) アンケート調査をどのような手法で行うか**

- ・調査票の設計、配布、回収、データ入力には多大な労力がかかるため、アンケートの実施方法や省力化の工夫が必要であること。

**【ステップ4：データを分析】**

**j) データクリーニングはどのようにすればいいのか**

- ・回答データのミス、論理的な不整合等のデータについて、方針を定めた上で、集計・分析に適したデータにする必要があること。

**k) データ分析はどのようにすればいいのか**

- ・分析には統計解析等の高度な知識・技術が必要であり、こうした知識・技術を有する社会的企業は限られること。社会的企業自らが評価を行う場合には、分析実務を誰が担うか、あるいは、分析技術をどのように高めるかという点が大きな課題であること。

**l) 分析結果は統計的に有意か／統計解析は必要か**

- ・分析結果の統計的有意性の提示は有益であるが、社会的企業の事業規模が小さく、調査対象母集団が小さいため統計的有意性を確保が容易ではないこと、統計解析には一定の知識・技術が必要であり社会的企業が自前で実施することは困難であること。こうした統計解析まで実施することが必須なのかについては検討が必要であること。

**【ステップ5：事業改善につなげる・報告する】**

**m) データ分析の結果をどのように示せばいいか**

- ・読み手に伝えるためには分析結果を分かりやすい形で見せることが不可欠であること。その際、グラフ化・ビジュアル化が有効な方法であること。

**n) 分析の結果をどのように解釈するか**

- ・個々の分析結果を解釈し、「全体として何がいえるのか」を言語化することが必要であること。

**（評価のあり方に関する課題）**

**a) 社会的企業はどのような評価体制で臨めばよいのか**

- ・ 評価業務を行う体制の確保は容易ではないが、限られたメンバーで評価作業を行うのではなく、多くの担当者を巻き込むことで組織内合意形成や評価担当者の納得感が得られる。社会的企業内で評価体制をどう作って評価に臨むのかが重要な課題。

#### b) 評価にどの程度の工数をかけるべきか

- ・ 評価にかかる時間は、事業規模、評価体制、評価手法に加え、社会的企業の評価に対する経験により異なるものの、評価の普及・促進のためには、評価負担の軽減の方策を同時に検討する必要があること。

#### c) 評価の費用負担はどのようにあるべきか

- ・ 評価にどの程度の費用をかけるべきか、また、その費用を誰がどのように負担するべきかということは検討課題であること。

以上のような課題が生じる要因としては、**イ) 社会的企業の評価の知見・経験の不足、ロ) 評価ステップ・アウトプットの複雑性、ハ) 評価に求められる高度な知識・技術の不足**の3点が考えられる。

課題の解決策として以下の5つの取組を進めることが必要と考えられる。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価事例の蓄積／ピア・レビューの活用</li> <li>・ 評価の簡素化・標準化</li> <li>・ 評価インフラの構築</li> <li>・ 評価の支援（伴走型支援）の活用</li> <li>・ 社会的企業の人材育成／組織運営力の強化</li> </ul> |
|---|

## (2) 伴走型支援のまとめ

本調査では、各社会的企業に対して社会的インパクト評価のプロセス全体に寄り添って支援する「伴走型支援」を実施した。伴走型支援として、具体的には評価の技術支援、技術移転・研修、ファシリテーター／ディスカッション・パートナー、進捗管理、日々の悩みの相談相手としての役割を果たした。

伴走型支援にあたっては、**a) 伴走者には評価の専門的知識、b) 事業への理解・共感、c) ファシリテーション、d) コミュニケーションの能力**が必要である。これらは、評価プロセス全体を通じて必要になるものであり、特に評価の専門的知識に関しては、評価以外での側面での社会的企業の支援とは異なる知識であることに留意が必要である。

上記のように、伴走型支援は、評価の実践経験が少ない社会的企業にとって、適切な評価を完遂する上では有効な支援方法であると考えられるが、その費用負担や伴走者の人材育成は課題である。

## 【参考】本調査の実施方法

### (1) 研究会の設置

#### 研究会の委員

氏名	所属
岸本 幸子	公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事・専務理事 事務局長
北大路信郷	明治大学ガバナンス研究科 教授
黒石 匡昭 (岡本 義朗)	新日本有限責任監査法人 パートナー <2016年10月～> (新日本有限責任監査法人 エグゼクティブ・ディレクター <～2016年9月>)
玉村 雅敏	慶應義塾大学 総合政策学部 教授
塚本 一郎 (座長)	明治大学経営学部 教授
馬場 英朗	関西大学商学部 教授

注) 五十音順、敬称略

#### 研究会の実施概要

回	実施日	概要
第1回	2016年6月29日	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査方針の確認</li> <li>社会的企業、スーパーバイザーの選定</li> <li>事前研修会の内容検討</li> </ul>
第2回	2016年8月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の実践に関する報告と議論               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ロジックモデル</li> <li>➤ インパクトマップ</li> </ul> </li> <li>第1回中間報告会の内容検討</li> </ul>
第3回	2016年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の実践に関する報告と議論               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ データ収集</li> <li>➤ データ分析</li> </ul> </li> <li>第2回中間報告会の内容検討</li> <li>中間インパクトレポート骨子案の検討</li> </ul>
第4回	2017年2月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>最終報告会の内容検討</li> <li>インパクトレポート、最終報告書骨子案の検討</li> </ul>

## (2) 社会的インパクト評価の実践

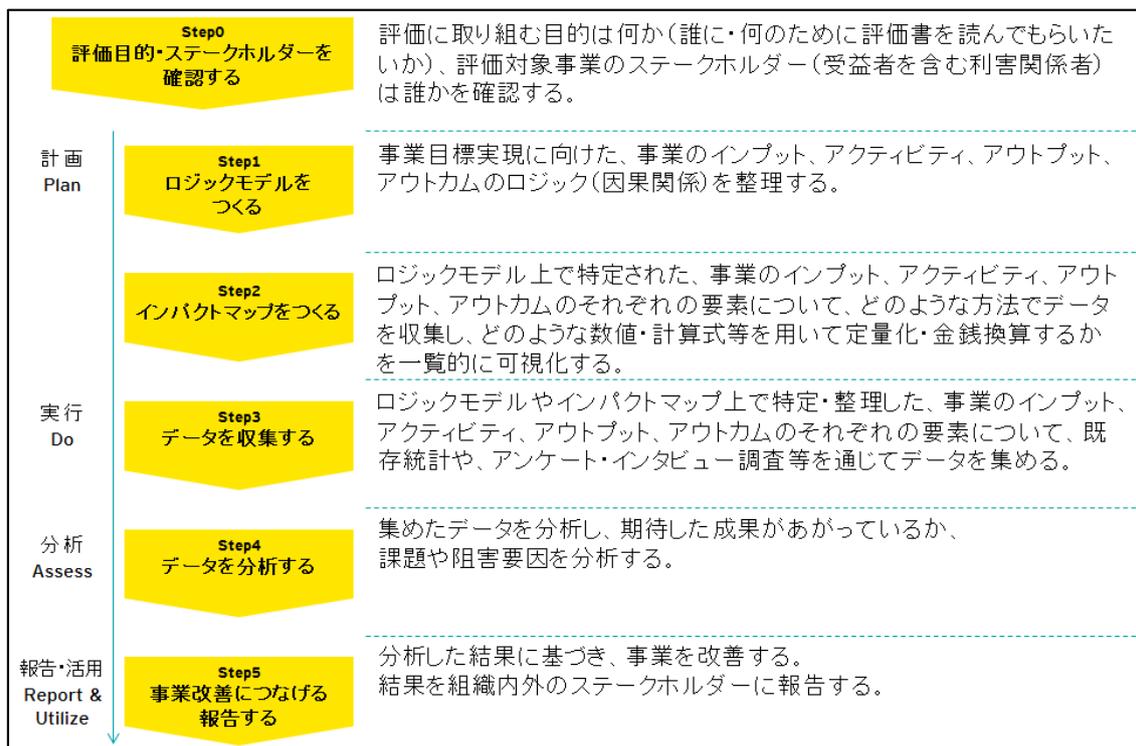
### 社会的企業の概要

社会的企業	主な事業
K2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ニート・引きこもりの若者に対する自立支援事業</li> <li>・ 共同生活を主体とした就労支援プログラム</li> <li>・ 海外での就労体験プログラム</li> <li>・ 雇用環境の確保 / 等</li> </ul>
Switch	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害福祉サービス事業所（スイッチ・センダイ、スイッチ・イシノマキ）</li> <li>・ 困難を抱えた青年期の就学・就労支援（仙台 NOTE、ユースサポートカレッジ石巻 NOTE）</li> <li>・ メンタルヘルスリテラシー教育（予防教育事業） / 等</li> </ul>
マドレボニータ	<p>【1】 教室事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産前・産後のボディケア&amp;フィットネス教室の開催</li> </ul> <p>【2】 養成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産後セルフケアインストラクター養成コース</li> </ul> <p>【3】 調査・研究・開発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NEC ワーキングマザーサロン</li> <li>・ 『産後白書』『産褥記』シリーズ、『マドレジャーナル』の発行</li> <li>・ 新規プログラムの開発 / 等</li> </ul>

### 社会的企業の支援体制

社会的企業	スーパーバイザー	伴走者
K2	玉村 雅敏 委員	三浦 雅央
Switch	馬場 英朗 委員	高崎 正有
マドレボニータ	岸本 幸子 委員	福井 健太郎

## 評価のステップ



### (3) 事前研修会・報告会の実施

#### 報告会の実施概要

回	実施日	概要
中間報告会 (第1回)	2016年9月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的企業からの報告(ロジックモデル、インパクトマップ、データ収集の概要)</li> <li>委員による議論</li> <li>参加者からの質疑応答</li> </ul>
中間報告会 (第2回)	2016年12月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的企業からの報告(データ収集結果)</li> <li>委員による議論</li> <li>参加者からの質疑応答</li> </ul>
最終報告会	2017年3月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的企業からの報告(データ分析結果、社会的インパクト評価への取組結果)</li> <li>伴走型支援について事務局から説明</li> <li>委員による議論</li> <li>参加者からの質疑応答</li> </ul>

#### (4) 受託法人の調査実施体制

##### <新日本有限責任監査法人>

- ・ 黒石 匡昭 パートナー（2016年10月より）  
（2016年9月までは、岡本 義朗 エグゼクティブディレクター）
- ・ 福井 健太郎 シニアマネージャー
- ・ 左近 靖博 シニアマネージャー
- ・ 高崎 正有 シニアマネージャー
- ・ 高木 麻美 マネージャー
- ・ 三浦 雅央 シニアコンサルタント

株式会社公共経営・社会戦略研究所（代表取締役社長 塚本一郎）に一部業務を再委託。